



2025年 平和への大きな一歩を！ 平和への願いを行動にする年に

戦争やめよ！始めるな！

昨年は日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、平和な未来への大きな後押しとなりました。

しかし、これは核戦争の危機感の反映でもあります。その可能性が現実のものとなっているからです。

米ロ両大国はそれぞれ国民の大きな反対に遭いながら、ウクライナ、パレスチナ、シリアなどで激しく対立し、軍備拡大を続けています。

戦いは宇宙戦争へと広がり、経済覇権も含めたサイバー攻撃の応酬ともなっています。出口の見つからない中で国連のコントロールにも限界があります。何世紀にもわたって人類が追求してきた世界平和への道筋の到達点が乱暴に打ち壊されようとしています。

「戦争はいったん始めたら終わらせることは難しい」と訴えてきました。それは時間がかかるだけではありません。新たな火種を残したり、作ったりします。

第二次大戦後、ドイツは分裂し、悲願の統一を果たして新しいヨーロッパのリーダーとなりました。ナチスの母国としてその戦争犯罪を償おうと様々な努力を重ねてきました。教育の改革やユダヤ人差別の禁止、ナチスの被害への賠償などは徹底して行われ、戦争責任をあいまいにする日本との対比が語られます。

しかしそれが真に平和を作り出したのかといえば、首をかしげざるを得ません。なぜならいまはユダヤ人差別禁止からイスラエル支援に大きく傾き、2023年のドイツからイスラエルへの武器輸出額は前年比の10倍に一気に増えたと言われ、ストックホルム国際平和研究所の調査によると、2023年イスラエルへの武器輸出の30%はドイツからのものと言われ、アメリカと共にドイツの武器がイスラエルの暴挙を支えています。

戦争の終わらせ方は戦後を規定することになります。そして戦争を戦った兵士、家族、市民の心に深い傷を残すのです。

今こそ「戦争反対、戦争起こすな」の声を！

戦争準備まっしぐら石破内閣 それを許さない世論を

石破首相は防衛大臣も務めた防衛族。核抑止論を唱え、ミサイル増強でミサイルを断念させるなどというパワーバランスの信奉者。アメリカとの対等外交という主張も「地位協定の見直し」を求める世論とは似て非なるもの。もっと防衛力を強化してこちらが強いんだと見せつけようということです。

極端にアメリカに依存した日本の防衛体制はシステムも指令体系もアメリカの下にあり、

武器の調達もアメリカからで、支払い能力を超えて購入を急ぐためローンで15兆円超。この3年間で約3倍に膨れ上がっています。防衛省が25年度予算で要求した軍事費（約8・5兆円）の約1・8倍に相当します。

一方、安倍内閣以来、戦争の危険、防衛強化を煽られ、ロシア、イスラエルに暴挙が伝えられても改憲の声は彼らの期待のように高まらず。毎年、憲法記念日のNHK世論調査でも改憲必要31%、必要なし29%でした。その必要論の中には「自衛隊も含めた軍事力を放棄することを明確にすべきだから」が8%が含まれているので、必要論の3%弱は逆の意味でした。

こうした中で行われた総選挙では改憲派が三分の二を20議席以上割り、石破茂首相（自民党総裁）は記者会見で、来年の自民党結党70周年を控え、「党是である憲法改正を前に進める」と強弁しましたが、29日付「産経」は、衆院の改憲派勢力が3分の2を下回ったことに言及し、「改憲論議は『冬の時代』に入った」と嘆いています。



DVD「標的」の感想

昨年12月8日 流山市生涯学習センターでDVD「標的」を観る会を開催しました。感想文の一部を掲載させていただきます

◆私自身この映画を観る機会を恵まれたことを嬉しく思います。植村さんだけでなく私も他の人も、中傷や攻撃の被害を与えてしまうことにいともし易くなってしまふ世の中であって、沢山のバッシング、中傷を浴びた、浴びている人たちの存在も「歴史」であり私含め心ある人々が記憶しなければ◆いい内容でした。一般の映画館では見られない今回のような映画の上映を希望します。◆非常にいい映画でした。桜井、西岡は。誤りを安易に認めたが。しっかり謝罪させることが必要。また、裁判所の判断もおかしい。吉田様はじめ弁護士、周囲の人が支えたことは素晴らしい力になったと思います。◆権力者の歴史修正は恐ろしい。意見交換が大事。対面的な机の配置を。あるいはワークショップ的に5、6人グループで。◆私は難しいことはわかりませんが。人間が人間を貶めるのか？報道を使って、SNSを使って……私には理解に苦しみます◆20代、30代、40代の。若い方が来られる上映会講演会、ETC。それぞれの年代のテーマを考えてもらいたい。若い方の意見を聞ける場を作って欲しい◆韓国への賠償は済んでいるので。個人賠償は韓国で解決してもらいたい。植村さん、正しいですけど◆重い内容でした。右寄りの人が多く裁判所も酷いと感じる。タイムリーなのものをしていただきたい◆教育と報道がコントロールされてきたことがよくわかった◆右翼の存在は恐ろしい。事実を報道すると、それを標的にして事実を歪めようとする。事実をなかったことにされてしまう◆日本の歴史を正しく知ることが大切だと思います◆権力は怖い。だけど戦います。逃げません。皆さん頑張りましょう。◆ガザやウクライナなどの戦争や社会問題を話し合うような集会を開催してください◆グループ現代の川井田博幸プロデューサー西嶋真司監督はいい仕事をしています。次は櫻井よしこを「標的」にした映画を作るように働きかけたい。今回のようなミニ集会を頻繁に行うとよい◆勉強になりました。恥ずかしいんですが、植村さんのことは何も知りませんでした。今日の映画で知ることができて、日本はどこが民主主義国家なんだろうか？とますます疑問になりました。

こうした上映会を今後続ける予定です。ご希望のDVD或いはご希望のテーマがありましたらお知らせください

まだまだ買います米製ミサイル

米国防総省の国防安全保障局は日本に中距離空対空ミサイルの売却を承認。総額36億4000万ドル（約5730億円）に上ります。このミサイルは「現在と将来の脅威に対応する日本の能力を向上させる」ものであり、日本の国土と、そこに駐留する米軍の兵士を守るとしています。日米政府はこのミサイルの共同生産を進めることに合意しています。いよいよ日本も死の商人の仲間入りでしょうか？

韓国で戒厳令失敗？

韓国の尹錫悦（ユンソンニョル）大統領は対立する国会の活動を停止するため「非常戒厳」を宣布し混乱が続いている。

国会に軍や警察を投入して国会を封鎖し、議員の議場への入室を阻止し、国会で戒厳解除要求決議が可決されるのを阻もうとした。これは内乱罪にあたるとして野党側が起訴した。大統領が逮捕されるかという状態にあり、大統領は公邸に立てこもって出廷しない、これを警察などが警備しているという緊張事態だ。

尹氏から議員らを拘束するよう電話で指示したとか戒厳宣布後、周辺で部隊を指揮していた李首都防衛司令官に電話で、本会議場に行って4人で議員を1人ずつ、かついでくるよう兵士に命じることを指示、「銃を撃つてでも扉を壊して（議員らを）引っ張り出せ」と指示。別の司令官には「扉をオノで壊してでも全員引き出せ」と指示したなどとも伝えられるが大統領の弁護士は真つ向から否定している。

年を越しても緊張関係は続く。しかし世界はこのこのさ中にいち早く民衆に呼び掛けてこの戒厳令を阻止した韓国の民主主義を讃える声が高い、詳しいことはまだわからない。だが日本でも憲法改正を叫ぶ人々は、自然災害などにかこつけて、自衛隊の書き込みなどとともに「緊急事態条項」を整えるべきだと主張する。

今回の隣国の事態はそれがいかなる危険をもたらす恐れがあるか、また議員や国民は何をなすべきかを考える機会を提供したことは間違いないだろう。

「九条の会・流山」宣伝と署名

◆1月9日(月) 15:30

おおたかの森駅自由通路

~~~~~  
カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会・流山